

1. 概評

12項目中で7項目が、前期に比して数値の改善が見られ、また全学平均と比して、No.2・3・4を除いた9項目が上回り、全般的に良好と認められる。各項目の傾向もほぼ前年度と同様の数値を示した。一方、最も課題である自主的な学習は改善されておらず、今後も継続して、学科全体で取り組む。

[学生]

授業への取り組み・出席状況は概ね良好で、シラバスの事前確認も前年度から継続して数値の改善が認められる。自主的な学習面については、更に周知徹底し、学生の意識を喚起すると共に、授業毎に学習意欲を高める工夫が必要と考える。

[授業内容]

授業内容は、概ねシラバスに則ったものであり、学生の理解度も考慮された授業運営がなされていると認められる。

[授業（教え方）]

教授方法については、全学平均を上回る数値であり、また前年度に比して各項目共数値の改善が認められ、概ね良好と認められる。FD活動を通して、より効果的な教授法を工夫する。

[環境・設備等]

学習環境は、概ね良好と認められる。低い数値を示した科目については、状況を確認した上で、改善を図る。参考資料については、前年度に比べ、僅かながら数値の改善が認められるが、自主的な学習の面からも更なる充実を図るよう努める。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.8	0	0	2	8	38	32	前年度に比して数値の改善が認められ、概ね良好と言える。数値の低い必修科目等については、シラバスの確認を徹底し、自主的な学習に繋がられるよう、周知する。
2	3.9	0	0	0	5	36	39	前期同様の数値で、学生の授業に対する積極性は、教室内では概ね良好と認められる。実習・演習系の科目の数値が高い傾向も例年通りであった。
3	4.2	0	0	0	0	11	69	出席状況は、前期に比して、0.1ポイント数値が低いものの、ほぼ良好と認められる。
4	3.4	0	0	10	33	31	6	平均値の改善は認められないが、科目数では3.5以上が前期に比して若干増加するなど、僅かながら改善の傾向も認められ、今後も継続して取り組む。
5	3.8	0	0	2	9	41	28	シラバスの事前確認と同様に、前期に比して、0.1ポイント数値が改善した。シラバスの確認が十分なされていない必修科目等中心に若干低い値であった。
6	3.9	0	0	2	8	31	39	前期に比して、0.1ポイント数値が改善し、科目数では3.5以上の科目が8割を超え、学生の理解度が考慮されている。
7	4.1	0	0	1	6	16	57	前期に比して、0.1ポイント数値が改善し、概ね良好と認められる。3以下の科目については、状況を確認した上で改善を要望する。
8	4.2	0	0	0	2	17	61	前期に比して、0.1ポイント数値が改善し、概ね良好と認められる。
9	3.9	0	0	1	12	22	45	前期に比して、0.1ポイント数値が改善し、概ね良好と認められる。3以下の科目については、状況を確認した上で改善を要望する。
10	4.1	0	0	0	4	19	57	教材については、概ね良好な数値を示した。
11	4.1	0	1	0	0	14	65	学習環境は概ね良好と認められるが、2.5以下の科目については、状況を確認した上で改善を図る。
12	3.7	0	0	0	7	60	13	前期に比して、0.1ポイント数値が改善したが、更なる充実を図るために、図書館と連携していく。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

- 1、前期に比して、数値の改善が認められたことは、各教員が授業改善に努めた結果と言えるだろう。一方、授業外で、学生の学習意欲を促進するための工夫が必要であり、具体的な方策について、科内のWGを中心に検討する。全学平均の数値上でも、No.4はNo.1・12と並んで、低い値であることから、学科での対応に留まらず、大学全体のFD活動において、検討すべき課題の一つとなるのではないかと。
- 2、学習環境については、良好な数値を示していたが、コンピュータ教室の不足は切実で、コンピュータを活用する授業を新たに設置することが困難になっているのが現状である。今後、こうした状況が改善されることが望ましい。

1.概評

学科平均が全体平均より上回っているものが2項目（No.6、No.7）、下回っているものが12項目中2項目（No.2、No.3）、それ以外は同等であった。概ね良好な結果となっているが、引き続き改善の方策を検討していきたい。

〔学生〕

シラバスの事前確認（No.1）と自主的な学習（No.4）は3.5ポイントと全項目中最も低い評価となっている。教室での積極的な取り組み（No.2）と出席状況（No.3）では数値は最低ではないものの、全体平均よりも下回っている。教室内外で自主的・積極的に学習に取り組むよう奨励していきたい。

〔授業〔内容〕〕

両項目とも3.5以上の数値となっており、授業内容の理解（No.6）は全体平均よりも上回っている。学生は授業内容を概ね理解できていると評価している。

〔授業〔教え方等〕〕

全項目とも高い数値となっており、説明の明快さ（No.7）は全体平均よりも上回っている。学生は教え方等については概ね満足していると評価している。

〔環境・設備等〕

両項目とも3.5以上の数値となっており、学生は環境については満足していると評価している。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.5	0	0	13	38	32	22	前年度（後期）と比較すると0.1ポイント低下している。必修科目の評価が低い。必修であっても受講前にシラバスを確認するよう指導を徹底したい。
2	3.8	0	0	0	22	46	37	前年度より0.1ポイント低下している。評価が高い科目は履修者数が少なく、低い科目は多い傾向が見られる。
3	4.0	0	0	2	4	33	66	学科平均は4.0と高いが、全体平均と比較すると0.2ポイント下回っている。履修者が指定される特別クラスの評価が特に低くなっている。
4	3.5	0	3	7	36	45	14	前年度同様12項目中最も低い評価（3.5ポイント）の1つである。特別演習（卒論ゼミ）の評価は高い。
5	3.6	0	0	4	34	44	23	前年度より0.1ポイント低下している。履修者の習熟度によって共通シラバスを調整・変更するスキル科目の評価が低い傾向にある。
6	3.9	0	0	1	24	33	47	前年度より0.1ポイント低下しているが、全体平均よりも0.1ポイント上回っている。少人数の演習科目の評価が高い傾向にある。
7	4.0	0	0	2	19	29	55	前年度より0.1ポイント低下しているが、全体平均よりも0.1ポイント上回っている。No.6と同様の傾向が見られる。
8	4.0	0	0	3	17	23	62	前年度より0.2ポイント低下しているが、高い評価となっている。No.6、No.7と同様の傾向が見られる。
9	3.8	0	0	3	28	33	41	前年度と同様の評価である。パワーポイントや視聴覚教材の効果的な使用を引き続き呼びかけていきたい。
10	3.9	0	0	2	19	37	47	前年度より0.1ポイント低下している。統一教材を使用するスキル科目の評価が低い傾向が見られる。
11	4.0	0	0	2	8	40	55	前年度より0.1ポイント低下しているが高い評価となっている。履修者数の多い科目の評価が低い傾向が見られる。
12	3.5	0	0	2	42	53	8	前年度より0.1ポイント低下している。専門選択科目の評価が高く、スキル科目の評価が低い傾向が見られる。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

平成 21 年度からはいよいよ Web 履修が開始される。学生に対しては、これまで以上に履修前にシラバスを確認するよう年度初めの教務ガイダンスで徹底指導したい。教員に対しては、より具体的なシラバスの作成と、変更が生じた場合の学生への説明を徹底するよう依頼する。

平成 21 年度から施行される学科新カリキュラムのもと、学生が教室の内外で自主的、積極的に取り組むことができるように、さらに学科の FD を検討していきたい。

授業内容や教え方については概ね良好な評価であったが、授業公開、全学あるいは学科の FD 活動等を通して、一層の改善を図っていきたい。

図書館の活用については、引き続き、1 年基礎ゼミ、3 年後期の特別演習（卒論ゼミ）で行う図書館ガイダンス等を利用して学生に周知させる。平成 21 年度からは、スキル科目の課題図書を図書館に設置していただくことになっている。これにより、これまで図書館の利用が少なかった英コミ学生も、頻繁に図書館を訪れて、課題以外の図書にも関心を持つようになることを期待している。また教員に対しても、各講義の中で図書館の参考図書を積極的に紹介するよう呼び掛けていきたい。

1. 概評

後期開設科目のうち53科目についてアンケートを実施した結果、学科平均が全体平均を上回る項目が3、全体平均と同じである項目が6、全体平均を下回る項目が3（no4、9、10）で、全体的には歴史専門科目は問題なく行われていると判断できる。

〔学生〕

授業の出席状況は良好で、授業には真面目に取り組んでいる。授業外での自主的な学習への取り組みには多少弱い面がみられる。自主的な学習につながるような工夫が必要である。

〔授業〔内容〕〕

授業内容は全般的によく理解されているといえる。

〔授業〔教え方等〕〕

話の仕方、板書やパワーポイントの使い方、視聴覚教材、配布資料等について、学生は概ね満足しているようであるが、授業内容に応じて各々一層の工夫が必要である。

〔環境・設備等〕

少人数の授業が多いせいか、学習環境への満足度は高い。参考図書については更なる充実が望まれる。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.7	0	1	2	12	24	14	評価は全体平均より高く良好といえるが、必修の授業シラバスがあまり見られていない傾向にある。引き続きガイダンス等で周知を図る。
2	3.9	0	0	0	7	24	22	授業中の取り組みは概ね良好といえる。
3	4.3	0	0	0	0	4	49	出席状況は良好である。
4	3.4	0	0	3	20	26	4	全体平均より0.1低い。大人数の講義科目、特に必修等で自主的な取り組みが十分とはいえない。課題の出し方の工夫などの対処が必要である。
5	3.7	0	0	0	10	35	8	シラバスの内容はほぼ予想通りといえる。
6	3.8	0	0	2	7	27	17	授業内容は理解できている。
7	3.9	0	0	0	9	18	26	概ね、説明は明快だと評価されている。
8	4.0	0	0	0	7	15	31	話は、よく聞き取れている。
9	3.7	0	1	2	12	20	18	視覚的な教材を使用する授業で高評価になる傾向がある。授業内容に応じて板書・教材等を工夫するなどの対処が必要である。
10	3.8	0	0	1	10	20	22	概ね良好でほとんどの学生が満足していると判断できるが、どのような配布資料・教材が歓迎されるのか、傾向を把握したい。
11	4	0	0	0	3	18	32	授業環境に対する満足度は高い。少人数授業が多いせいと思う。
12	3.5	0	0	1	21	26	5	ほぼ良好のようだが、更に満足度を上げるようにすべきである。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

- ・当学科の学生は、出席良好で授業内では真面目に取り組む一方で、授業以外での学習に関して積極性に欠ける傾向がある。これは以前からみられる傾向で、いかに自主的な学習を促すかが引き続き今後の課題である。授業内での課題の出し方の工夫や、博物館・美術館の展覧会、講演会、公演の紹介や案内を通じて、学生の学習意欲を喚起していきたい。
- ・教員の教え方、即ち、話の仕方、板書やパワーポイントの使い方、視聴覚教材、配布資料等について、全体的には好評と判断できるが、各々の授業においてはやはり常に点検が必要であろう。授業内容・分野に応じて、各々一層の工夫が求められる。
- ・WEB 履修開始に伴い、シラバスの事前確認を徹底していきたい。
- ・授業以外での自主的な学習という点でも更なる図書の充実が望まれる。教員からの図書の推薦を積極的かつ継続的に行う必要がある。

1. 概評

前回よりも平均値が低下した項目はないうえ、平均値の高さをみると、全体としては良好であるといえる。引き続き全体の向上を図りたい。

[学生]

学生の自己評価に関しては前回の評価よりも上昇している。また、授業出席率は非常に高いうえ、授業に積極的に取り組んだ学生が多かった。ただし、授業外での自主的な学習をする学生が少ない点に関しては、授業の課題やレポートなどに取り組んでいても、これらを自主学習ととらえていないものと考えられる。また、受講前にシラバスを確認する学生の割合も高くなったが、さらに高める必要がある。クラス主任や教務部委員から学生に注意喚起を実施したい。

[授業[内容]]

シラバスの適切さに関しては、ごく一部の授業において、授業がシラバスで予想した内容と異なるとする側の評価もあったため、各教員にシラバスと授業内容の間に齟齬がないか、シラバスがわかりにくいかの確認をしてもらう。

[授業[教え方等]]

教員の説明の明快さ、教員の話の聞き取りやすさ、視聴覚機材の使い方や配付資料・教材の効果等はいずれも良好であったと考えられる。

[環境・設備等]

学習環境は概ね良好であった。図書館資料に関しては特に不足しているという評価ではなかったが、引き続き充実を図るべく要請したい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.6	0	0	1	12	16	8	学科平均が前回より 0.3 ポイント上昇したが、クラス主任や教務部委員から注意を喚起したい。
2	3.8	0	0	0	11	13	13	学科平均が前回より 0.2 ポイント上昇した。授業に積極的に取り組んでいる割合は総じて高いといえる。
3	4.4	0	0	0	0	0	37	学科平均が前回より 0.2 ポイント上昇した。授業への出席率は非常に高い。
4	3.2	0	0	16	13	6	2	学科平均が前回より 0.1 ポイント上昇した。授業外での課題やレポート等への取り組みを自主学習と捉えていない可能性がある。
5	3.5	0	0	4	12	18	3	学科平均が前回より 0.1 ポイント上昇したが、各教員にシラバス内容と授業内容との間に齟齬がないか、また、シラバスがわかりにくいかの確認を要請する。
6	3.6	0	0	4	7	17	9	学科平均が前回より 0.2 ポイント上昇した。授業の理解度は概ね高いと考えられる。
7	3.7	0	0	4	6	12	15	学科平均が前回より 0.1 ポイント上昇した。教員の説明は概ね明快であったと考えられる。
8	3.9	0	1	2	3	11	20	学科平均は前回と同一であった。教員の話はよく聞き取れていると考えられる。
9	3.6	0	1	4	5	16	11	学科平均は前回と同一であった。板書・OHP・PowerPoint 等の使い方は概ね適切であったと考えられる。
10	3.8	0	1	3	4	15	14	学科平均は前回と同一であった。配付資料・教材等は効果的であったと考えられる。
11	3.9	0	1	2	3	11	20	学科平均が前回より 0.1 ポイント上昇した。受講者数・教室環境等は総じて良好と考えられる
12	3.3	0	0	1	28	8	0	学科平均は前回と同一であった。平均は「どちらともいえない」に近いが、やや揃っている側に位置している。引き続き図書館蔵書の充実を要請したい。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

全体としては良好な状況にあり、前回よりも評価が上昇した項目が多く、評価の下がった項目はなかった。

学生の自己評価も授業内容および教え方に関する評価も高いといえる。ただし、受講前にシラバスを確認する割合をさらに高める必要があるため、クラス主任や教務部委員から学生に注意喚起を行いたい。また、シラバスと授業内容との間に齟齬が存在する可能性のある授業がごく一部存在しているため、各教員に確認を要請したい。

総じて評価は高いが、さらに向上を図るべく、学科教員で結果を共有し、具体的な改善策を考えていきたい。

1. 概評

[学生]

前年度に引き続き、出席状況は良好であり、前年度以前からの課題であったシラバス確認については、WEBによる確認ができるようになったこともあり、改善が見られた。授業外での自主学習も、平均としては評価が高くなってきているが、科目による差があり、講義系科目を中心に自主学習の促進が望まれる。授業への積極性については、受講者数が多いことと積極性が低いことの相関性が見られた。環境面を含めた改善が必要といえる。

[授業内容]

授業内容の理解度は、以下の授業の教え方に関する項目のポイントがすべて高くなっていることもあり、平均して高くなっている。また、授業内容とシラバスの内容も以前に比べて一致してきているようで、シラバス通りという評価が年々高まってきている。

[授業「教え方等」]

授業の教え方については、全項目とも平均して評価が高くなってきている。ただ、細かく見ると、受講人数の多寡や科目によって、評価の差が見られる。個々の教員による改善とともに、資格科目を中心に、出来るだけ低学年でより多くの科目を取得したいという学生の傾向による集中履修が見られるので、適切な履修指導等による対応が必要といえる。

[環境・設備等]

学習環境については、全体的に改善がみられてきているが、受講者数にあった教室の確保が必要である。法改正や群制度・コース制度の導入などによって、カリキュラムが変動しており、履修者数の事前予測が難しいが、WEB履修の中の優先履修科目・受講調整科目などの科目分類制度を活用して、学生の希望を第一にしつつ適切な人数での受講を可能にしていきたい。図書についても、全体に充実しつつあるが、科目間の差があるので、各担当教員を中心に図書館を活用しつつ整備を図っていくことが望まれる。

2. 各項目の評価

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.4	0	0	0	27	15	1	シラバスの事前確認については、前年度に比べ全体的改善された。その中で、資格科目については、資格取得に必要なという理由で、十分に事前確認していない傾向が見られた。
2	3.8	0	0	0	7	22	14	前年度と同水準を維持している。特に、少人数の授業に比べて、多人数の授業では積極性が低くなっているため、環境的要因の改善が必要である。
3	4.2	0	0	0	2	3	38	前年度に引き続き、出席状況は良好である。実習等もできる限り、長期休暇中に配属しており、授業に出席しやすい環境がより整ってきたといえる。
4	3.4	0	1	3	19	19	1	授業外の自主学習は、わずかであるが平均が徐々に高くなってきている。講義系の科目が低い傾向にあるので、文献紹介などにより自主学習の促進が望まれる。
5	3.5	0	0	1	17	25	0	シラバス通りという評価が年々高まってきている。科目間での評価の分散が最も低い項目になっていることから、学生が評価しにくい項目になっている可能性がある。
6	3.8	0	0	1	5	28	9	年々授業の理解度は、平均して高くなってきている。演習・実習系の科目を中心に、今回は講義系の科目においても、理解度が高まっている。
7	3.9	0	0	3	5	16	19	授業の説明は、平均としては前年度と同様に評価が高かった。ただ、科目間の差があるので、この格差を少なくすることが今後の課題である。
8	4.0	0	0	0	4	12	27	授業内容は、よく聞き取れていたことがわかる。やはり、100人を超える授業などでは聞きにくい傾向が見られたので、環境面を含めた改善が必要である。
9	3.7	0	0	1	8	26	8	前年度より、平均的に高くなっている。講義系の科目が高い一方で、実技系の科目では必ずしも板書等を必要としないこともあるため、評価が低い場合もある。
10	3.8	0	0	1	8	19	15	前年度よりも全体的に評価が高くなっている。配布資料、教材の適切性が上記の授業理解や説明の評価の高さにもつながっていると考えられる。
11	3.8	0	0	0	4	26	13	学習環境については、前年度よりもポイントが上がっている。受講者数に対して教室の狭い授業での評価が低い傾向が見られる。

12	3.4	0	0	0	22	21	0	平均値は前年度と同様であるが、ポイントの低い科目が減ってきた。さらなる図書の充実により、全体の評価を一層高めていくことが可能と思われる。
----	-----	---	---	---	----	----	---	--

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

(1) 今後の方針

- ・シラバスの事前確認については、WEB 履修の説明とともにその意義を説明し、一層の向上を図る。
- ・学生の授業への出席状況はよいが、資格科目を中心に公欠の取り扱いが所管官庁の指導により厳密になってきているので、その周知徹底を図る。
- ・学生の授業への積極性や理解度を高めるために、環境面(受講人数と教室の広さ)の整備とともに、各担当教員が授業の教え方や教材の改善を図る努力を行う。
- ・学生の希望を重視した図書の整備等を行う。

(2) 教務部・大学への要望事項

- ・履修調整による努力によっても、資格取得の必要性などから、受講生が大人数になってしまう場合が多いので、その際の適正な広さの教室の確保が必要である。一方で、演習科目を中心に、所管官庁の指導のもとで、人数制限(例えば、50 人以下、20 人以下のように)のある科目があり、定員増や編入生の増加もあるため、それに必要な数と適正な広さや視聴覚設備のある教室の確保が必要である。
- ・来年度から、卒論が必修となり、3 年次前期(従来は 3 年次後期からの選択)から、2 年間にわたり卒論指導の授業が開始されるため、ゼミナール形式の授業が行いやすい教室の整備が今後必要となってくる。

1. 概評

全体的に見て、学生の自分自身に対する評価は全体平均よりやや低く、教員の授業内容や授業方法に対する評価は高いという、対照的な結果となっているが、これは前年度（平成19年度）とほぼ同様の傾向である。またアンケート実施科目数が、前年度後期の45科目から66科目に増えたのは、非常に良いことだと考えられる。

[学生]

「シラバスの事前確認」が、相変わらず全体平均の値を大きく下回っている。ただし、平成21年度からはWeb履修登録が始まり、シラバスの事前確認がより重要となることから、今後の推移が注目される。

[授業[内容]]

学生の評価は、全体平均とほぼ同じかやや高い。本学科で実施している、少人数の授業が良い効果を出しているのではないかと考えられる。

[授業[教え方等]]

多くの項目で全体平均を上回る良い評価が出ており、学生の満足度は高いものと思われる。

[環境・設備等]

人数・教室の広さ等の学習環境についてはおおむね満足であるが、前年度と比べて多少不満が出てきた傾向がある。また図書館における参考書の整備状況については、全体平均と同じであるものの必ずしも高い評価が出ていない。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.2	0	7	20	17	13	9	全体平均3.5よりかなり低い評価となっている。ただし、この値はWeb登録が始まる平成21年度からかなり改善されるのではないかとと思われる。
2	3.9	0	0	0	7	29	30	全体平均と同じであるが、高い値であり、学生が授業に積極的に参加しようとしている姿がうかがわれる。
3	4.1	0	0	0	3	15	48	本学で出席が厳しく義務づけられていることと、この結果を合わせると、高い評価は当然ではないかと思える。ただし、全体平均より若干低い値が出ている。
4	3.5	0	0	3	28	29	6	一昨年度より昨年度、昨年度より今年度と、次第に改善されてきた。引き続き、授業外での学習の重要性を学生に知らせていきたい。
5	3.5	0	0	3	28	28	7	昨年度後期と同じ値で、ほぼ平均的な評価となっている。
6	3.9	0	0	0	10	27	29	この項目は昨年度より高く、全体平均より良い評価である。先生方の授業での努力がうかがわれる。
7	4.0	0	0	0	7	21	38	全体平均3.9より少し高く、3.0未満の評価を受けた科目がなかったことから、学生は授業での説明がかなり明快であったと感じているようである。
8	4.1	0	0	1	4	19	42	4.0以上の評価を受けた科目が非常に多く、先生方の授業中の努力がうかがわれる。
9	3.8	0	0	0	13	31	22	全体平均と同じであり、学生は教員の授業方法におおむね満足していると考えられる。
10	4.0	0	0	0	4	23	39	前年度より高い値が出て、配布資料や教材に対する学生の満足度はさらに高まったものと思われる。
11	4.1	0	0	1	5	13	47	前年度同様、高い評価であるが、前年度になかった3.5未満の評価の科目がかなりあったことから、学習環境に対する不満が多少あったと思われる。
12	3.5	0	0	1	28	32	5	全体平均と同じだが、低い値が出ているのが気になる。この項目については、別途調査が行われる計画があるので、その結果にも注目したい。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

- ☆ 授業の内容や教え方に関する項目(質問5～10)で、良い評価(4.0以上)を受けた科目群とあまり良くない評価(3.5未満)を受けた科目群の間で受講生数を比較したところ、平成19年度前・後期、平成20年度前期と同様、良い評価を得た科目群の平均受講生数は良くない評価の科目群の平均受講生数より少ないという結果が出た。これは明らかに、少人数クラスが学生から高い評価を得ていることを示している。本学科では、今後も可能な限り少人数教育を実施したいと考えており、教務部、大学に理解と支援を希望していく。
- ☆ クラス人数と同様、視聴覚教材やパソコンを用いた授業に対する学生たちの満足度も高い。理想的には、すべての教室にパワーポイントやDVD映写用のプロジェクターやテレビを設置してほしいが、教室の簡易視聴覚化がまだ十分とは言えない。さらなる教室の視聴覚化やパソコン教室の増設を希望する。
- ☆ 前年度(平成19年度)後期はアンケート実施科目数が45科目と非常に少なく、この原因として、①受講者が10人未満の科目が増加したこと、②教員がアンケートを実施しなかった科目が多かったことの2点を考えた。今回、アンケート実施科目が66科目に増え、改善がみられたが、受講者10人未満の科目は相変わらず多いのが現状である。受講生が少なすぎる科目にどう対処していくかということは、少人数教育を実施する本学科の抱える大きな問題である。

1.概評

[学生]

授業に対する積極的な取り組み、出席状況については、高い評価を維持している。シラバスの受講前の確認、授業外での自主的な学習についても、評価が向上している。学生は、学習態度・出席状況ともに良好で、将来幼稚園教諭や小学校教諭、保育士になるという確固とした希望をもって授業に取り組む姿勢は授業評価の上からは維持されていると言える。

[授業内容]

授業[内容]に関する設問についての評価はすべての項目において、昨年度後期・今年度前期よりも高い評価が出ている。カリキュラムについては、幼稚園・小学校教諭、保育士となるために必要な理論的な面と実践的な面の両面から教員としての資質能力を向上させるようにプログラムされているが、学科として継続的にカリキュラム改善のための検討に取り組んでいる。

[授業教え方等]

授業[教え方等]に関する設問についての評価はすべての項目において、昨年度後期・今年度前期よりも高い評価が出ている。板書や視聴覚機器を駆使した教え方の工夫等、教育技術面についての意見交換の機会を持つように心がける。

[環境・設備等]

環境・設備等に関する設問についての評価はすべての項目において、昨年度後期・今年度前期よりも高い評価が出ている。図書館についての評価もかなり向上してきている。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.8	0	0	2	9	35	19	シラバスについての意識の改善が進んでいる。引き続き、履修ガイダンス等において、UP-SWOHAの利用やシラバスの意識付けを行っていく。
2	4.4	0	0	0	0	9	56	良好な評価である。学生は、授業態度良好で、授業に積極的に取り組んでいる。今後もこの状態をさらに維持発展させていくよう努める。
3	4.6	0	0	0	0	2	63	出席状況は、一部の学生を除いて全体的に極めて良好である。出席状況のよくない学生については、クラス主任を中心に今後も丁寧に指導にあたっていく。
4	4.0	0	0	2	6	20	37	評価は向上してきている。今後も、学科の基礎科目等で自主的な学習の進め方について指導していくとともに、各科目において自主的な学習を組み込んだ授業構成を工夫する。
5	3.9	0	0	0	5	30	30	評価は向上してきている。今後も、各科目でシラバスの位置付けの明確化に心がけ、シラバス確認の習慣付けを行う。
6	4.2	0	0	0	1	16	48	良好な評価を得ている。基礎的知識を着実に定着させ、その上で専門的知識を追究する姿勢を今後とも育んでいく。
7	4.3	0	0	0	2	9	54	良好な評価を得ている。今後も、明快な説明の方法について工夫するとともに、授業改善に関する教員間の意見交換の活発化をはかる。
8	4.3	0	0	0	2	9	54	良好な評価を得ている。今後も、授業の聞き取りやすさについて工夫するとともに、授業改善に関する教員間の意見交換の活発化をはかる。
9	4.1	0	0	1	2	20	42	良好な評価を得ている。今後も、板書、教育機器の活用について工夫するとともに、授業改善に関する教員間の意見交換の活発化をはかる。
10	4.2	0	0	0	3	10	52	良好な評価を得ている。今後とも引き続き、効果的な配付資料、教材の工夫を行うとともに、授業改善に関する教員間の意見交換の活発化をはかる。
11	4.3	0	0	0	0	9	56	良好な評価を得ている。80年館の学習環境については、高い満足度が維持されている。
12	3.9	0	0	1	4	34	26	評価は向上してきている。参考図書の充実については、今後も教員が積極的に協力していくとともに、図書館利用を組み込んだ授業を工夫していく。

3. 今後の方針, 教務部・大学への要望等

初等教育学科は, 学科定員が, 平成 20 年度以降一学年 100 名に増加しており, 平成 23 年度には定員総数 400 名となる。学生の進路希望に応じた多様な学習機会を提供していく工夫を今後も続けていきたい。カリキュラムについても, 学科規模の拡大と, 保育士関連科目における人数制限に伴う開講数の増加により, 時間割の過密化, 複雑化がすすんでいるので, 今後の教員・保育士養成教育の発展的な展開を可能にするためのカリキュラムの改善を継続的に進めていく。

施設面については, 現在のところ, 学習環境も整備され, 学生の満足度も高いが, 学生数の増加に伴い, 教室定員ぎりぎりの授業も増加している。今後の学科規模の拡大や授業の実態から考えると, 現在割り当てられている教室数とスペースは, 学科の望ましい教育展開のためには手狭になってくると思われる。

教員養成を主目的とする本学科においては, クラスルームを中心とした学科運営は教員の資質能力の育成という面から見て重要な意味をもっているので, クラスの自教室はぜひとも確保したい。さらに教員の研究室も狭く, ゼミ等の学生指導に使える部屋が少ないのが問題になっている。

これらの状況から, 十分な教室数と授業・研究スペースの確保が望まれる。

1.概評：昨年度と比べて、各項目の平均値に大きな変化はないものの、良好な評価となった科目がやや増え、全体的に授業は良好な状態にある。しかし一部の講義科目では、授業の内容を理解できない傾向にある。これらの科目は理数系の科目であり、学科の基礎的な科目も含まれるので、教材の提示方法や選定など、理解度を高めるような検討がさらに必要である。

【学生】：昨年度よりも授業に欠席をしないで積極的に取り組んでいる姿勢がやや増加している。授業外で自主的な学習をしていないと答えた科目は、講義やオムニバス科目に多い傾向にある。オムニバスでは、教員間で連携して課題を出すなどの工夫をして、演習科目と同様に自主的な学習を促していく。また、理解度が低い科目に自主的な学習が不足しているものが見られた。

【授業[内容]】：全体としては理解度が良好な科目数が増えたが、授業内容が理解できない傾向にある科目は理数系の科目である。特に理解度が低い平均点2.5未満の科目については、授業内容の見直しや教材、板書などの教え方の工夫の検討と、自主的な学習に役立つような参考図書を充実させることが必要である。

【授業[教え方等]】：教え方は全体的には良好な傾向にあり、特に、配布資料やPP機器などが適切である科目が増えている。しかし、理系の科目の一部では、工夫する余地がある。特に受講者の人数が多い場合には、学力の差が大きくなることから、学力に応じたクラス分けを行い、理解度を高めるよう検討が必要である。

【環境・設備等】：学習環境は概ね適切であるが、評価が低い科目の教室は、机の大きさが適切でないなどの原因が考えられるので、改善の必要がある。また、参考書が図書館に充実しているとは言えず、特に授業内容の理解が低い科目は、自習用に必要度が高いので、これらを中心に推薦図書を奨励していく。

2.各項目の評価（上段：昨年度、下段：今年度）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.6	0	1	1	37	58	15	昨年より0.1上昇。受講前のシラバス確認が若干定着してきたと考えられる。次年度の導入授業廃止に向け、シラバスの重要性が高まるので、情報の密度を上げてさらに活用の徹底を図る。
2	3.9	0	0	0	18	44	50	平均値は昨年度と変わらないが、内訳では3点台前半より後半にシフトしており、やや向上の傾向がある。昨年度同様4以上が最も多く、学生は積極的に授業に取り組んでいる姿勢がみられる。一部、理解度も自主的な学習も低い科目については、課題出題により自主的な学習を促進させたい。
3	4.1	0	0	1	4	30	77	平均値は昨年度より0.1上昇し、4.1と良好な傾向にある。出席状況は4以上が最も多く、中でも演習科目は、一部を除き出席が良好である。
4	3.6	0	0	7	39	34	32	昨年度と平均値は差がないものの、分布の状態からはやや向上の傾向が認められた。自主的な学習をしない傾向にある講義科目やオムニバス科目などについては、課題等の出題により自主的な学習を促していく。
5	3.6	0	0	5	29	62	16	平均は昨年度と変化なし。シラバスは全体的に予想通りの傾向にあると答えた学生が多いが、記載内容の工夫も必要である。
6	3.7	0	3	3	26	45	35	平均値は昨年度と差がないが、評価の内訳に変化がみられる。授業の理解度が4以上の科目が11増えたが、理解度の低い2.5未満の科目も1科目から3科目へと増えた。評価が低めの科目はいずれも理数系科目である。不得意な学生に対して授業方法をさらに工夫する必要がある。
7	3.8	0	2	4	22	43	41	全体的には「説明は明快」と答える傾向にあるが、不明快と答えた2.5未満は理系の2科目である。学力の差があり、指導は難しいが、さらにわかりやすい授業方法の検討が必要である。
8	3.9	0	1	3	13	45	50	昨年度と大きな変化なく、全体的には授業は聞き取れる傾向にあるが、聞き取れないと答えた2.5未満は1科目である。マイクなどの機器の確認と合わせて授業方法の工夫が必要である。
9	3.7	0	2	1	27	52	30	昨年度より0.1上昇で、板書や教育機器の使い方がより適切な方向に改善されている。しかし、評価の低い科目では授業を理解しにくい傾向にあり、これらの使い方を検討する必要がある。
10	3.7	0	1	2	22	52	35	平均値は昨年度と差がないが、内訳からは4以上の適切な科目数が10増え、概ね配布資料は適切な傾向にある。授業内容が理解できない学生は、不適切と答える傾向にあるため、理解度の低い科目では教材等の検討も必要である。
11	3.8	1	0	4	19	39	49	学習環境は全体的には適切な科目が多かったが、2未満の1科目については、適切な学習環境になるよう対応したい。
12	3.4	0	0	6	66	30	10	良好な評価の科目がやや増加したが、参考書は科目によってはあまり揃っていない傾向が見られる。授業の理解度を向上させるためにも、自主的な学習促進のため推薦図書を更に奨励していく。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

1) 今後の方針

学科の開設科目全体からみると、評価が向上している科目が増えているが、一方で依然として理解度が低い科目が残っている。これらは、理数系講義科目に多い。受講生の多い科目は、授業の内容を理解しにくい環境にあるといえることから、基礎的科目については、19年度よりクラスの増設によるレベル別受講生数の調整も行っており、一定の効果もみられている。しかしながら、これらの担当教員および学科による改善努力があるにも拘らず、現状に追い付かず理解度が低くなっていると考えられる。特に現在の入試事情により、理系が苦手でも入学できるため、授業内容を理解できない学生が増えていると考えられる。したがって、一定の学習効果を確保するためにより視覚的な授業方法や復習に活用できる教材のWebでの提供など、学力不足の学生に対し、従来の概念を超えるきめ細かいサポート体制を強化する必要があると考える。

2) 教務部への要望

授業に積極的に取り組まない学生が「授業が理解できない」、「説明が不明快」などと不満を訴える傾向が認められる。このようなアンケート結果に対してどう対応していくのかを検討する必要がある。

また、現在授業担当者に届くアンケート結果は集計された数字データのみであり、そこからの読み取りは教員個人の工夫に任せられている。しかしながら、ヒストグラムなど最小限のグラフ化処理が済んでいれば、より結果を利用しやすくなり、授業改善が進むことが期待されるので、検討の必要がある。

3) 大学への要望

授業の理解度を上げるには少人数での授業を行う必要がある。演習系の科目では少人数の授業が多いが、理系講義科目では受講生が多いため授業を理解しにくい環境にある。理系の基礎科目を学力レベルによるクラス分けと少人数の授業を試みているが、入学生の急激な変容に対応が追いつかない状況である。今後は、さらに小規模な授業にする工夫が必要と考えられる。しかしながら教員スタッフの人数不足などから、持ちコマを増やすことが難しい状況にある。また、理解度を上げるためにはよりビジュアルな教材を活用する必要もあると考えられる。H21、3月にはいくつかの学科演習室にプロジェクターなどの視聴覚設備を普通教室、実習室ともに拡大整備していただいたので、これらを活用し、今後の効果を確認していきたい。また、H20前期の報告書でも要望にあげたが、教室の多目的化が進み、実習、演習室をやむなく講義科目でも利用することがあり、使い勝手が悪い場合があるとのコメントが届いている。したがって、机、いすなどの教室内の設備も講義、演習どちらに対しても使い勝手の良いものが望まれている。

受講生が多く、質問しにくい環境にある一部の授業では、時間外での質問が発生しがちであるが、授業の質問を学生とメールでやりとりするのは、授業担当者の負担が大きい。以前からブログ形式のQ&Aを検討していたが、20年度からようやくUPSHOWAで実現が可能なところにこぎつけた。しかしながら実際は、システム上の制限から、条件の異なる履修者が混在する科目では全員に教材情報を公開できなかったり、掲示板機能が使えなかったりと、活用できない状態が続いている。折角導入したシステムの活用度を高めるためにも、早急に授業形態の多様性に対応できるようなシステムの改善が望まれる。また、実際にはUPSHOWAの活用度が教員・学生ともにまだかなり低い状況にあるので、教員および学生へのUPSHOWAの講習会などの企画や、全学的な活用の呼び掛けが望まれる。

また、一部の視聴覚教室(D1.7L34)など、教室環境の不備により評価が著しく低いと思われるものについては、この春、机椅子の入れ替えが実現したので、その効果を見守りたい。

1. 概評

今回の評価は、全体として非常に良好であった。後期は、4 年次学生が国家試験を控えていること、1 年次学生にも資格必修科目が開始されることなど、学科全体として緊張感があったためか。今後もこの状態を維持できるよう努めることが重要である。

[学生]

出席状況、授業への取り組みに加え、自主学習にも積極的に取り組んだことがうかがえた。

[授業[内容]]

選択科目では、学生の進度に合わせ内容を変更できるが、資格必修科目では、目標をクリアする必要があり、そのため授業の進度がやや速く、学生の自主学習が必須となる。本年度は、改善の傾向が見られた。

[授業[教え方等]]

学生は、ほぼ満足していることがうかがえた。

[環境・設備等]

おおむね良好であった。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.1	0	6	25	28	8	4	シラバスの確認を怠っているのは、主として国家試験対策講座である。選択科目では十分に活用している様子がうかがえた。
2	4.0	0	0	0	7	25	39	授業への取り組みは非常に良好であった。特に、実験・実習では積極的に取り組み評価が高かった。
3	4.5	0	0	0	0	6	65	非常によい。しかしながら個別にみると、遅刻者などもあり、学科としての今後の課題である。
4	3.5	0	0	2	29	35	5	自主学習に対する評価も、昨年に比べ高かった。
5	3.5	0	0	1	32	33	5	シラバスを確認したものについては評価が高く、確認していないものについて低い評価をする傾向が認められた。設問と回答について検討の要あり。
6	3.7	0	0	3	15	33	20	選択科目では評価が高く、資格必修科目では評価が控えめであった。しかし、昨年より評価は上昇しており、学習態度の向上がみられた。
7	3.9	0	0	3	12	20	36	授業はおおむね明快であると評価された。
8	4.0	0	0	2	8	22	39	学習環境の整備によるところも大きい、聞き取りやすいとの評価を得た。
9	3.7	0	0	2	16	31	22	資格必修では PP の利用は必ずしも学生のためにならない。学生もその点を理解しての評価であり、良好である。
10	3.9	0	0	1	9	30	31	6 項と非常に強く関連していることがわかった。配布資料を利用し、自主学習に努めることを望む。
11	4.0	0	0	0	6	25	40	学習環境に対する評価は概ね良好であった。
12	3.6	0	0	1	21	43	6	学生の評価を見ると、2, 4, 6 項との相関がないことがわかり、かなり単発的な評価である。利用頻度との関係も調査したらいかがか。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

■今後の方針

今セメスターの評価はおおむね良好であった。冒頭にも記載したが、4 年次学生の国家試験へ望む姿勢や、1 年次学生の資格必修科目へ向かう姿勢などが良い影響を及ぼしたと考えられる。今後も、この状況を保つべく、一層の努力を要する。

■教務部・大学への要望

アンケートを実施した後の集計について、1 項と 5 項の関連、6 項と 4、9、10 項との関連など、複数項目について相関を見ることができれば、より明確な対策を立てやすいと考える。

また、12 項については、使用頻度についての設問を検討するなどして、信頼性を高めることが必要と考える。

1. 概評

大学全体平均と本学科平均を比較すると、設問 no. 3 でやや劣っているものの、他の項目ではすべて同等もしくは本学科が上まわっている。No. 3 についても大学全体平均から 0.1 ポイント劣っているだけである。

[学生]

シラバスの確認は大学全体と比べても比較的良好に行われているようである。出席状況の評価だけが大学全体に比べてやや劣っているが、3.0 未満の評価科目はまったくなく、おおむね良好である。学生たちは授業にも積極的に取り組んだと自ら評価している。授業外での自主的学習については全学と同じ評価点で、必ずしも高いとは言えない。ことに一部の資格関連科目などに評価点が低い傾向が見られ、この点でやや問題であると言わねばならない。

[授業[内容]]

授業については特に問題となることはないようである。授業がシラバスで予想した内容だったかとの設問に対しては、若干評価が低くなっているものの、設問 no. 1 (シラバスの内容を受講前に確認したか) とほぼ同じ評価点となっていることと併せ考えると、シラバスを確認した学生にとってはほぼ予想したとおりだったと見るべきであろう。授業内容が理解できたかとの設問に対して評価はそれほど高くはないが、大きな問題もない。

[授業[教え方等]]

説明が明快だったかとの質問に対しては評価が高い。もともとこの質問について評価が低い科目としていくつかの「GP ゼミ」が挙げられている。学生の間に、この科目への若干の戸惑いが見られるようである。教員の声が良く聞き取れたか、との設問に対する評価も大きな問題はない。板書・OHP・パワーポイントの使用についての評価はやや低い。授業でこれらのものを必ずしも使うとは限らず、むしろ一律の設問に問題がある。また、各教員はそれぞれ教材を工夫して授業を行っている。

[環境・設備等]

学習環境についての評価もおおむね良好である。いっぽうで、図書館の蔵書についての評価はやや低い。しかし、本当に図書館をつかいこなしているかには疑問がある。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.8	0	0	3	18	58	26	シラバスの確認はまずまずといったところである。便覧に授業概要を載せず、Web 登録が行われる次年度からは確認が必須となるはずであり、さらに指導を要する。
2	3.9	0	0	0	13	51	41	おおむね積極的に取り組んだと自己評価している学生が多い。今後の推移を見守りたい。
3	4.1	0	0	0	4	25	76	出席状況については多くの学生が高い評価を与えており、問題はない。
4	3.5	0	1	6	51	31	16	授業外の自主的な学習は評価が低い。とくに一部の資格科目で低い評価がされており、今後改善を要する。
5	3.7	0	0	3	21	56	25	シラバスをどの程度確認できているのかがまず問題のようである。同時に教員側は誤解されないシラバスを書くことに努めるようにしたい。
6	3.8	0	0	2	16	50	37	授業が理解できていないという評価はほとんどない一方で、完全に理解できているわけでもないとの傾向が見える。授業にもう一工夫が必要かもしれない。
7	3.9	0	0	2	13	37	53	教員の説明については大きな問題はなく、このまま推移を見たい。
8	4.0	0	0	1	6	33	65	4.0 以上の高い評価が多く、教員の話はよく聞き取れているようである。
9	3.9	0	1	2	18	45	39	すべての授業で板書・OHP・パワーポイントを使うわけではないので、むしろ設問に問題がある。
10	3.9	0	0	0	17	42	46	教材については教員がそれぞれ工夫しており、評価も大学全体と同レベルである。
11	4.0	0	0	1	11	32	61	学習環境について大きな問題はない。教室が新しいとは言いがたい中で、予想以上の評価である。
12	3.5	0	0	3	41	47	14	必要な図書が揃っていないとの声はかなりあるようである。ただ、学生たちが実際にどれほど図書館を利用しているか、蔵書検索がうまく出来ているかに疑問もある。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

(今後の方針)

昨年度後期と比べて、評価上大きな変化はなかった。その評価を受け止め、授業運営の参考にしていきたい。それなりの評価を維持できているのは教員の努力と指導によるものであり、またそれを支える助手・職員の支えがあつてのことである。今後もこの評価水準を落とさず、できればさらに改善していくように努めたい。

(教務部・大学への要望等)

授業評価アンケートについては、每期指摘していることながら、多くの学生がまじめに答える中で、すべての問いに同じ点を付ける学生の存在がかなりあり、中にはすべての設問に最低点を付ける学生もある。どれだけ真の評価になっているかについてはアンケートの回を重ねるごとに疑問が増している。自由記述欄に記述する学生が初期の頃に比べて断然少なくなっていることは、この評価方式が必ずしも有効でなくなっていることを示すものであろう。

さまざまな形態の科目がある中で学科全体の評価結果へのコメントをすることは、必ずしも有意義とは言えない。科目ごとに担当教員がコメントをする方法の方がそれなりに意義はあると考えられる。授業評価アンケートおよびアンケート報告書のあり方も見直しをしていくことが必要である。

1.概評

「出席状況」以外は、いずれも全体平均より学科平均が0.1～0.5ポイント低く、学生は授業に対して厳しく評価しているようだ。全体的には、前期とほぼ同様な結果であった。

〔学生〕

栄養士の免許の他、フードスペシャリスト、栄養教諭、家庭科教諭等の資格取得という目的意識をしっかり持ち、勉学に励んでおり、出席は良好である。

免許・資格関連の必修科目が多いためか、事前のシラバス確認が徹底されていない。オリエンテーション・HRなどを活用し、喚起したい。

各教科ごとに、課題やレポート提出が課せられており、授業時間外にもかなりの時間を使い勉強しているのだが、その学習を自主的学習にとらえておらず、自主的学習の評価が低かったと思われる。特に講義科目において自主的学習を促す工夫が必要と思われる。

〔授業〔内容〕〕

学生の理解度はおおむね良好であるが、科目による差が生じている。学生の得手不得手や学生間の理解力の差も踏まえ、個人への対応など授業担当者のさらなる取り組みに期待する。

〔授業〔教え方等〕〕

栄養士法により、授業は1クラス40人として実施しているため、受講しやすいと思われる。また、教材、資料、power point等を効果的に用いた授業への取り組みが評価され、おおむね良好である。実験・実習室ではマイクを使用するなど、授業担当者の工夫が功を奏したと思われる。

〔環境・設備等〕

おおむね良好との評価を得た。学生ロッカーは教室内と廊下に設置されたもの両方が使用可能となり整備された。しかし、教室内、机のまわりなどの学習環境整備への個人意識の欠如が著しく、今後の指導課題である。一部の教室、実験・実習室によっては、十分なスペースを確保できていない現状がある。また、参考図書については、授業担当者が必要な図書の確認を行い、さらなる設備充実に向け、図書館へ働きかけていくことが必要である。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.0	0	3	21	30	5	0	前期と全く同じ数値で、免許・資格関連の必修科目が多いためと考えられる。
2	3.8	0	0	0	7	34	18	科目・クラスにより差が生じている。全体的に講義よりも実験・実習の方がポイントが高いようだ。
3	4.3	0	0	0	0	12	47	全体平均よりも0.1ポイント高く、出席状況は良好である。学科内の連携を密にし、今後も指導を継続したい。
4	3.3	0	1	5	30	22	1	実験・実習・演習科目は、レポート作成など授業時間外の学習が多いため、ポイントが高い傾向がみられる。講義科目においても自主的学習を促す指導を実施する。
5	3.4	0	0	1	36	23	0	シラバスの事前確認の不十分さと、内容が専門性の高い分野によるものと思われる。
6	3.5	0	0	1	23	30	5	科目・クラスにより理解度に差が生じている。学ぼうとする意欲を育て、授業に集中できるように取り組みたい。
7	3.7	0	1	0	16	26	16	ほぼ明快と良好な評価。
8	3.8	0	0	1	12	23	23	授業は、40人を単位として実施し、実験・実習室ではマイクを使用しており、良好と評価。
9	3.6	0	0	1	18	28	12	同じ科目でもクラスによりバラつきがみられるが、概ね良好な評価。
10	3.7	0	0	1	15	31	12	前期よりも0.1ポイント高くなり、概ね良好の評価が得られた。
11	3.8	0	0	0	0	43	16	概ね良好の評価。
12	3.4	0	0	0	34	25	0	教員からも要望を出し、さらなる参考図書の充実整備を図りたい。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

今後の方針

- ・学生の能力、理解度の二極化のみならず、生活態度や心理面においても個人差が非常に大きくなっているため、授業の進め方が難しくなっている。理解できない学生や、欠席の多い学生には個別に対応していく方途を講じたいと考えている。
- ・本学科は、必修科目が多いため、シラバスの事前確認率が低かった。今後は学期初めのオリエンテーションやHRを活用し、指導を行いたい。
- ・学生の評価は同じ科目であってもクラスによりかなりの差が生じている。この対応として、まず、授業に主体的・積極的に取り組む姿勢をしっかりと植えつける工夫が肝要と考える。

教務部・大学への要望

- ・授業の効率や学生の理解度を高めていくためにも、できるだけ視覚的な教材を用いたいと考えている。しかし、現在食物科学科で、視聴覚設備が整っている教室は2教室のみであり、授業準備・片づけに多くの時間を要しているのが現状である。そのため各教室、各実験・実習室への視聴覚設備の充実が強く望まれる。

1.概評

[全体]

子ども教育学科は、本年度後期をもって、無事終了した。学生の評価・授業内容・指導法・環境設備、全て高い評価を得て終えることができ、50年の歴史に相応しい結果であった。

[学生]

子ども教育学科としては、最終学年の後期となるので、学生自身も悔いのないよう、精一杯勉学に就職活動に打ち込んでいた。本学科の学生の多くは、小学校教諭・幼稚園教諭・保育士へと、将来の夢を実現する第一歩をこの学科で踏み出した。出席状況も大変良好で、授業に主体的に参加していた。授業外にも、積極的に子どもと接するボランティア活動に参加し、経験を積む学生も多い。専攻科は次年度も継続されるので、入学予定者には、子ども教育学科の伝統を受け継ごうという意欲が見られる。

[授業[内容]]

全体的に、前期より肯定的評価が上昇した。免許・資格の取得のための履修科目がかなり多いが、小学校と幼稚園の教師に必要な理論と実践に基づくカリキュラムが充実していた。

[授業[教え方等]]

前期以上に、各授業は、学生の理解度を踏まえ、適切な教え方であると高い評価を得ている。

[環境・設備等]

前期より満足度が上がり、高評価を得ている。

2.各項目の評価

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.8	0	0	1	4	6	8	前期より 0.5 上昇し、事前にシラバスをチェックする姿勢が習慣化されつつある。
2	4.3	0	0	0	0	3	16	前期同様、積極性は高いと言える。
3	4.6	0	0	0	0	0	19	前期同様、出席率は依然として高い。
4	4.2	0	0	0	0	7	12	前期より更に、授業外でも自主的な学習をする学生は増えている。
5	3.9	0	0	0	1	8	10	前期より 0.3 上昇し、シラバスと講義の重要性を意識し始めている。
6	4.2	0	0	0	0	6	13	前期より 0.1 上昇し、授業の理解については、良好な評価を得ている。
7	4.2	0	0	0	1	6	12	前期より 0.1 上昇し、授業中の説明については、かなり高い評価を得ている。
8	4.2	0	0	0	1	5	13	前期同様、授業中の聞き取りについては、かなり優良な評価が継続している。
9	4.1	0	0	0	2	5	12	前期より 0.1 上昇したが、板書・OHP・PowerPoint 等の使用については、各授業の内容により異なるので、一概に評価することは困難である。
10	4.1	0	0	0	2	5	12	前期同様、良好な評価を得ている。
11	4.3	0	0	0	0	4	15	前期より 0.2 増加し、学習環境について、満足度は高い。
12	4.1	0	0	0	0	8	11	図書館に対する満足度はあり、前期より 0.3 上昇した。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

専攻科は、H21 年度が最終年度となるため、学生にとって、専攻科の学生であることを誇りに思い、納得のいく勉学生活を送れるように、支援を継続していきたい。

1. 概評

夜間主では在籍者が減少し、10人以下の少人数授業も多いため、平成20年度後期については履修者10人以上の科目を中心に計16科目についてまとめている。そのうちの2科目が他学科との共同開設、2科目が昼夜開講となっている。なお、前年度後期は9科目、今年度前期は12科目が評価データの対象となっていた。

今回は、多くの項目において前回(平成20年度前期)を上回る結果が得られた。0.3ポイントの向上が1項目、0.2ポイントの向上が3項目、全体平均でも0.8ポイントの向上となっている。0.3ポイント向上の項目は No.10の「配付資料、教材」、0.2ポイントの向上は No.7「説明の明快さ」と No.8「話の聞き取り」、No.9「板書、OHP、PowerPoint の使い方」である。授業運営の根幹に関わるこれらの項目において改善がなされ、受講学生がそれを評価したということは喜ばしい。一方で、No.3「出席状況」に関しては0.3ポイント減となっており、勤務等の関係で欠席が重なる学生が存在しているのが現状である。

[学生]

学習態度は真摯であり、授業中の発言や質問も多く、積極的に授業に取り組んでいる姿勢が窺える。授業時間以外でも熱心に質問する者も多く見受けられる。しかし、No.4「授業外で自主的学習」に関しては前年度・前回に引き続き最も評価の低い項目であり、No.3とともに勤労学生、社会人学生を主体とする夜間主の宿命的な課題である。勤務や家事の都合上、授業以外に学習の時間を設定するのが困難で、また、学習時間にはかなりの個人差があることは否めない。総じて、学習意欲は認められるが、学習中心の生活が送りにくいのが夜間主学生の現状と言えよう。

[授業[内容]]

授業内容については、項目 No.5が0.1ポイント増、No.6は変わらずという評価になっている。前回の報告でも指摘したことだが、学生の授業理解度には個人差が大きい。授業内容を理解できない学生がやや増加しているのではと懸念される。同一授業で初歩的な質問と高度な質問が出されるケースもあって、授業担当者から指導上の問題点としての苦慮の声も聞かれる。

[授業[教え方等]]

この項目については、今回、改善が目立っている。特に No.10「配付資料、教材」に関しては0.3ポイントと大きく改善され、昨年度後期の評価に回復した。資料プリントや視聴覚機器の活用は授業進度の把握や授業内容の理解上、不可欠のものであるので、今後も学生のニーズを反映した選択が求められよう。項目 No.6「授業内容の理解」とも連動することではあるが、授業内容のレベルをどこに合わせるかも授業担当者にとっての課題となっている。

[環境・設備等]

この両項目については、評価の低下がない。大学3号館という新環境が功を奏したということも考えられる。

図書館に熱心に通う学生もいるが、多くの学生は勤務や家事に時間を割かれ、それが困難である。授業時間以外での自主的学習の場を確保することが空間的にも時間的にも困難なのが社会人学生の現実である。学科の図書室の更なる整備などによって、より図書・資料を閲覧しやすい環境の整備が必要であろう。

この点は、来年度から図書館開館時間の延長が実現することなので、学生の利便性が増し、学生の評価は大いに改善されるものと期待される。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

No	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	(16) 評価と対策
1	3.5	0	0	1	5	8	2	シラバスの確認は前回から引き続いてやや悪化している。授業全体を把握するうえで重要であるので、より周知徹底を図る必要がある。
2	3.9	0	0	0	2	7	7	学習態度は真摯で、発言や質問も活発である。学生の多くは積極的に授業に取り組んでいるが、学力差や勤務等の疲労から集中力の鈍った学生が散見する。
3	3.7	0	0	0	6	5	5	社会人学生が約7割で、勤務等の都合上欠席・遅刻せざるを得ない学生が数名いる。今回、最も評価が低下した項目である。
4	3.3	0	0	2	11	3	0	前回同様最も評価が低い。授業外の学習には個人差が大きく、勤務と勉学の両立が困難な学生もいる。授業外学習時間確保は今後とも大きな課題である。
5	3.7	0	0	0	3	10	3	授業内容については概ねシラバスで予想した通りであったようである。学生の確認不足、教員の説明不足の場合もまだまだあるので、今後も周知徹底を図って行く。
6	3.8	0	0	0	3	6	7	授業内容は概ね理解されている。社会人学生にとって仕事や生活に密着した、身近な話題を扱う授業が評価される傾向が見受けられる。
7	4.2	0	0	0	0	5	11	前回に引き続き高い評価がなされている。授業内容、使用テキスト、資料、説明を含め、学生の満足度をより高めて行きたい。
8	4.2	0	0	0	0	6	10	項目7同様、前回に続いて評価が高い。少人数授業が多く、授業中に学生が授業内容を確認・質問出来る雰囲気があることもその一因であろう。
9	4.0	0	0	0	0	8	8	この項目は前回より0.2ポイント改善された。視聴覚機器を有効に活用し、板書の工夫がなされた成果であろう。
10	4.2	0	0	0	1	4	11	前々回から前回で0.4ポイント低下した評価が、今回は逆に0.3ポイント改善された。テキスト、教材の選択という手を付けやすい改善で評価が好転した例であろう。
11	4.1	0	0	0	1	3	12	学習環境は、今回も良い評価となった。大学3号館使用となり、学習環境が良くなったと感じられたようで、また、少人数授業が多いことも一因であろう。
12	3.6	0	0	0	5	8	3	前回同様評価が低い項目である。社会人学生の多くは大学図書館を利用しにくい状況がある。来年度の図書館開館時間延長に期待したい。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

〈今後の方針〉

①平成20年度後期、文化創造学科夜間主のカリキュラムには、一般教養科目も含め77科目が設定されている(他学科共同開設科目を含む)。一方、在籍者は57人であるので、少人数授業が多くなっている。少人数ゆえのきめ細かい密度の濃い授業が展開されている反面、活発な雰囲気には乏しい授業も存在する。授業時間以外に学習時間を確保することが困難な社会人が多い現状において、これらの科目を夜間に開設することの可否や、昼夜の連携強化など、文化創造学科全体における夜間の位置づけと将来構想について、学科全体の課題として検討した結果、来年度の夜間主カリキュラムでは隔年開講科目を増やすなどを実施して、カリキュラムのスリム化を図ることとなった。

なお、来年度新入生から夜間主コースが廃止されるので、夜間主は2年次生のみとなる。

②平成20年度は、前年度に文化創造学科が完成年度を迎えたことから、学生の実状とニーズをふまえて、昼夜全体にわたってカリキュラムを再構築した。その際、昼夜同時開講科目の拡充によって科目の充実と整理統合を行った。科目によっては昼夜の学生が同一教室で受講している。

今後は、夜間主の中心である社会人学生のニーズと能力レベルに合わせた授業内容に配慮する必要がある。来年度新入生からは、昼間の時間帯のほうが学びやすい主婦等の社会人に配慮して昼夜開講生に移行し、夜間主コースを廃止することとなった。

③学生生活の面や経済面で問題を抱えた学生が数名存在する。そうした学生には、授業も含めて、学生生活全般にわたってねばり強い学生指導を継続して行くことが求められている。きめ細かな個別指導は今後ますます重要になってくるものと思われる。それを通して学生の自主的な学習への動機付けを高めてゆく。学生の理解度とニーズの多様化の中で、個別指導の重要性が痛感されるところである

〈教務部・大学への要望〉

①夜間主学生には、さまざまな面で個別のサポートを必要とするものが少なくない。クラス主任の役割が重要となる所以である。6・7講時の間の休憩時間は5分しかなく、また6講時開始前では勤務をもつ学生の登校は困難で、クラスルーム等を設定する時間的余裕が無いのが現状である。そのため、掲示やメールで指導、対応しているが、徹底できない部分がある。学生対応が出来るような時間の設定を工夫して行きたい。

②大学当局には環境の整備や美化をお願いしてきた。幸い、平成20年度からは夜間主の教室・教授室が大学3号館に移転し、昼夜統合された。教室の使い勝手も良く、設備の充実もあって、学生には好評である。

さらに、来年度からは図書館の夜間開館時間が延長されると聞き及んでいる。とりわけ夜間にしか通学できない社会人にとっては朗報である。

1. 概評

概ね良好である。

[学生]

学生の自主的学習を今後さらに促していくことが必要である。

[授業[内容]]

シラバスを見ずして受講して「期待した内容と異なる」という学生の意見は論外であり、科目の性格上、シラバスを作成した時点よりもさらに新しい情報・内容を盛り込んだ授業を行っているケースもあるので、学生の意見は参考程度にとどめる。

[授業[教え方等]]

学生から特に指摘もなく、教員側も努力しているので良好である。

[環境・設備等]

教員が努力しており、視聴覚設備が十分整ってきたので、これまでの問題点は改善されてきた。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.7	0	0	2	27	76	22	まだシラバスを十分読んだ上で授業に出席していないようであるが、今後 Web 登録となれば、シラバスを読んだ上での履修登録となるため、改善が期待できる。
2	3.8	0	0	0	21	64	42	科目により差がある点を勘案して、概ね良好である。
3	4.2	0	0	0	0	10	117	大変良い。
4	3.3	0	0	19	68	36	4	専門科目に比して一般教養科目には十分時間をとれない点もあるようであるが、授業を通じて自主学習を促していく。
5	3.6	0	0	1	31	73	22	学生はシラバスを必ずしも読んで出席はしていないので、この評価を鵜呑みにはできない。引き続き、シラバスを読むことを指導していくことを教員にお願いする。
6	3.8	0	0	4	19	57	47	概ね良好である。
7	3.9	0	0	0	18	31	77	概ね良好である。
8	4.0	0	0	1	12	36	78	概ね良好である。
9	3.8	0	0	5	22	47	53	概ね良好であるが、非常勤の先生も含め各教員の工夫・努力を引き続きお願いする。
10	3.9	0	0	2	17	38	70	概ね良好である。
11	3.9	0	0	3	15	40	69	概ね良好である。
12	3.5	0	0	1	69	54	3	大きな問題はないが、今後も積極的に各教員に推薦本を図書館に申請してもらう。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

現在、一般教養科目の見直し・検討作業を始めており、創立 90 周年に向けて、さらにより充実した科目群の設定ができるように準備努力をしている。

授業をスムーズに実施していただくためにも、特に非常勤講師への連絡事項は早めに行うように教育支援センターの事務を円滑に行っていく必要がある。

「授業運営に関する取り決め事項」はあらかじめ 3 月中に郵送しておくべきで、1 回目の授業に来て「初めて見た」云々と、ご意見(批判)を頂いている。今後の改善点である。

また、学校行事の日程だけでなく、「授業運営上・事務作業」に関わる仕事がどのような日程で進められていくのか、4 月の段階で「年間予定表を」非常勤の先生方にもあらかじめお知らせできるようにしていく必要がある。シラバス、FD アンケート感想など、パソコン操作で事務処理を行うことが多くなり、これまでの方法では、煩雑、締切期日が早いといった指摘もあり、それを回避するためにも、各教員が授業計画を立てやすいように、大学全体で改善策を考えていく必要がある。

1.概評

前年同期(平成19年度後期)に比べて、わずかではあるが、全体として改善されている。

[学生]

学生の出席状況は引き続き良好である。

[授業[内容]]

授業内容に関する問6は若干改善されている。

[授業[教え方等]]

授業の説明、学生の聞き取り、板書などに関する問7, 8, 9は若干改善されている。

[環境・設備等]

環境に対する評価は良好である。設備については改善はされているがまだ不十分である。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.3	0	12	47	74	66	21	前年同期比 0.1 ポイント上昇しているが、相変わらず低い数値である。1年生は外国語クラスが決まっているため、シラバスを参照しないものと思われる。
2	3.9	0	0	1	21	107	91	前年同期比 0.1 ポイント改善。問題なし。
3	4.2	0	0	0	3	34	183	前年同期と同様に高い数値で問題なし。
4	3.6	0	0	8	82	100	30	前年同期比 0.6 ポイント上昇と大幅に改善されている。各教員による指導が功を奏したと考えられる。
5	3.6	0	0	3	86	109	22	前年同期比 0.1 ポイント上昇。
6	3.6	0	0	3	51	116	50	前年同期と同様で問題なし。
7	3.9	0	0	2	21	93	104	前年同期と同様で問題なし。
8	4.1	0	0	0	13	75	132	前年同期比 0.1 ポイント上昇。前年同期もその前に比べて改善されており、各教員の努力によるものと思われる。
9	3.8	0	0	2	36	124	58	前年同期比 0.1 ポイント上昇。
10	3.8	0	0	1	31	107	81	前年同期と同様で問題なし。
11	4.1	0	0	1	3	88	128	前年同期比 0.1 ポイント上昇。
12	3.4	0	0	6	133	70	11	前年同期比 0.1 ポイント上昇。しかしまだ低い水準であり、学習書などをさらに充実させる必要がある。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

・平成 21 年度から web 履修登録となるのに伴い、導入授業が廃止される。学生はシラバスを参照せざるをえないので、シラバスをより詳しくわかりやすく書く必要がある。

・1年生の外国語については、年度初めに、英語はクラス分けテスト、英語以外は希望調査、によりクラスを確定する。シラバスをさらに詳しくすることにより、英語以外の外国語を選択するための材料とする必要がある。

1. 概評

受講者数の偏りや年度によるばらつきが少なくなるようになってきた。

〔学生〕

資格取得のための講義で、学生の多くは真剣に受講している。

〔授業〔内容〕〕

学習内容は大人として次世代を担う子どもに関わる必要もあることに気づくと教員にならなくても主体的になれるようだ。

〔授業〔教え方等〕〕

非常勤講師の方々に支えられている科目群である。学生が学びやすいように講義を工夫してくださっているようだ。

〔環境・設備等〕

印刷資料を用いての講義が多い。パワーポイントとビデオプロジェクターを駆使しての提示も増えた。教育機器が備えてある教室が整備されつつあることの反映だと思われる。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.7	0	0	0	8	12	6	シラバスを見るようになってきた。UP-SHOWA の使い勝手よくなってきたからだろうか。
2	4	0	0	0	1	12	13	積極的に取り組んでいる。
3	4.4	0	0	0	0	1	25	出席は非常によい。
4	3.6	0	1	3	4	10	8	授業外の負担は皆無ではない。
5	3.8	0	0	0	7	12	7	予想される内容で講義が展開されている。
6	3.9	0	0	0	5	7	14	講義内容についていけている。
7	4.1	0	0	1	3	4	18	理解しやすい講義になっている。
8	4.2	0	0	0	1	6	19	講義内容は明瞭。
9	4	0	0	1	3	6	16	プレゼンテーションや板書が分かりやすい。
10	4	0	0	0	3	7	16	ハンドアウトが充実している。
11	4.1	0	0	0	1	9	16	学習環境は良好である。
12	3.6	0	0	0	8	15	3	参考図書がそろいはじめている。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

平成21年度に認定許可を文科省に受けられるように「教職実践演習」開講の具体策を早急にまとめ関係学科との調整をする。

平成21年度夏に文部科学省の教職課程実施状況の視察がある。毎年課程認定の基準を満たせるように進めてきた。その成果を出せるように引き続き努力したい。

以 上